

# 民主化闘争情報

No. 1032  
2021年1月21日  
発行 日本鉄道労働組合連合会  
(JR連合)

ここに一冊の冊子がある。タイトルには「JR労働運動の証人 浅野孝 若き労働者諸君に語る」と付されており、複数の講演録が綴られている。講演の主は表題の通り「浅野孝」なる人物であるが、その浅野氏が昨年5月に行ったと思しき講演録において、JR東労組の分裂騒動を「分裂組織を実際につくったのはサビ労（新たに結成された「JR東日本輸送サービス労組」を指すと思われる）」だけど、サビ労をつくらせ・つくったのは東労組でもある。そういう意味では、出ていった方も残った方も自らの手で組織を破壊した」と、JR東労組及びJR東日本輸送サービス労組の両組織を批判している。

さてこの浅野氏、西岡研介氏の著書「トラジャ」によれば、革マル派中央から「トラジャ」と呼ばれていた、筋金入りの革マル派活動家だというのである！

## 革マル派の指導的立場にある人物？が動きを活発化

### JR東労組分裂騒動の背後で革マル派活動家が暗躍か?!

この冊子、発行元が「MII刊行委員会 関根輝明」と記載されていた。関根氏とは、現在「JRひがし労」東京地本委員長を務める人物。講演録の中には浅野氏自身が「JRひがし労」の立ち上げに関わったと取れる記述もあり、浅野氏と「JRひがし労」には浅からぬ関係があるようだ。

そういえば、JR東労組は昨年10月、同労組高崎地本が「JRひがし労」と共同行動を取っているとして地本執行部らを「背信行為」と指弾した「見解」の中で、「JR東労組中央本部に『若き労働者諸君に語る』と題した、自らを革マル派と述べるX氏の講演録が送られてきた」「X氏は～中略～「ひがし労を立ち上げた。」と述べていた」と指摘。我々が入手した冊子との内容の一致度合いを見れば、X氏とは浅野氏を指しているのは一目瞭然だ。

## 「マングローブ」と目されている四茂野氏が著書を刊行

一方、昨年末にはJR総連元副委員長だった四茂野修氏が「評伝・松崎明」なる著書を刊行した。この四茂野氏なる人物、同著に掲載されている著者略歴によると「東京大学文学部哲学科中退。動労本部に就職して労働運動に従事、JR東労組、JR総連の役員を歴任」と記述されているが、同じく西岡研介氏の著書「マングローブ」によれば、「東京大学革マル派出身、マングローブの一員と名指しで指摘されている人」とある。その四茂野氏、同著巻末の「あとがき」において、JR東労組の組織分裂を巡る3地本の指導部の制裁について「私は制裁ではなく、実のある討論によって対立点が解消されることを願っていた」と述べ、組織対立の状況を憂いている。

## 革マル派秘密組織「トラジャ」「マングローブ」の蠢きに警戒を！

西岡氏の著書「トラジャ」(p.110)には、革マル派綾瀬アジトの摘発(1996年8月)による押収物の分析結果から判明した資料を引用し「JR総連内の革マル派構成員は約600人とみられるが、この中から選ばれた約120人が、JR総連傘下の各労組内革マル派を指導している」「(革マル派党)中央労働者組織委員会の中には『トラジャ』と呼ばれる『JR出身の常任委員』約10名がいて、これらの者が『マングローブ』と呼ばれる『JR委員会』に所属する約150人の指導的メンバーを指導してきた」とある。だとすれば、浅野氏、四茂野氏は革マル派の指導的な人物といえる。

JR東労組が分裂し、JR東日本輸送サービス労組、JRひがし労が対立して、表面的には組織が退潮し革マル派の影響力が弱まったように見えるが、こうしてみるとむしろ革マル派の指導的立場にある活動家が背後で蠢き、動きを活発化させているようだ。その背景には何が隠されているのか？JR内の革マル派の動向を注視し、いっそう警戒していく必要がある。